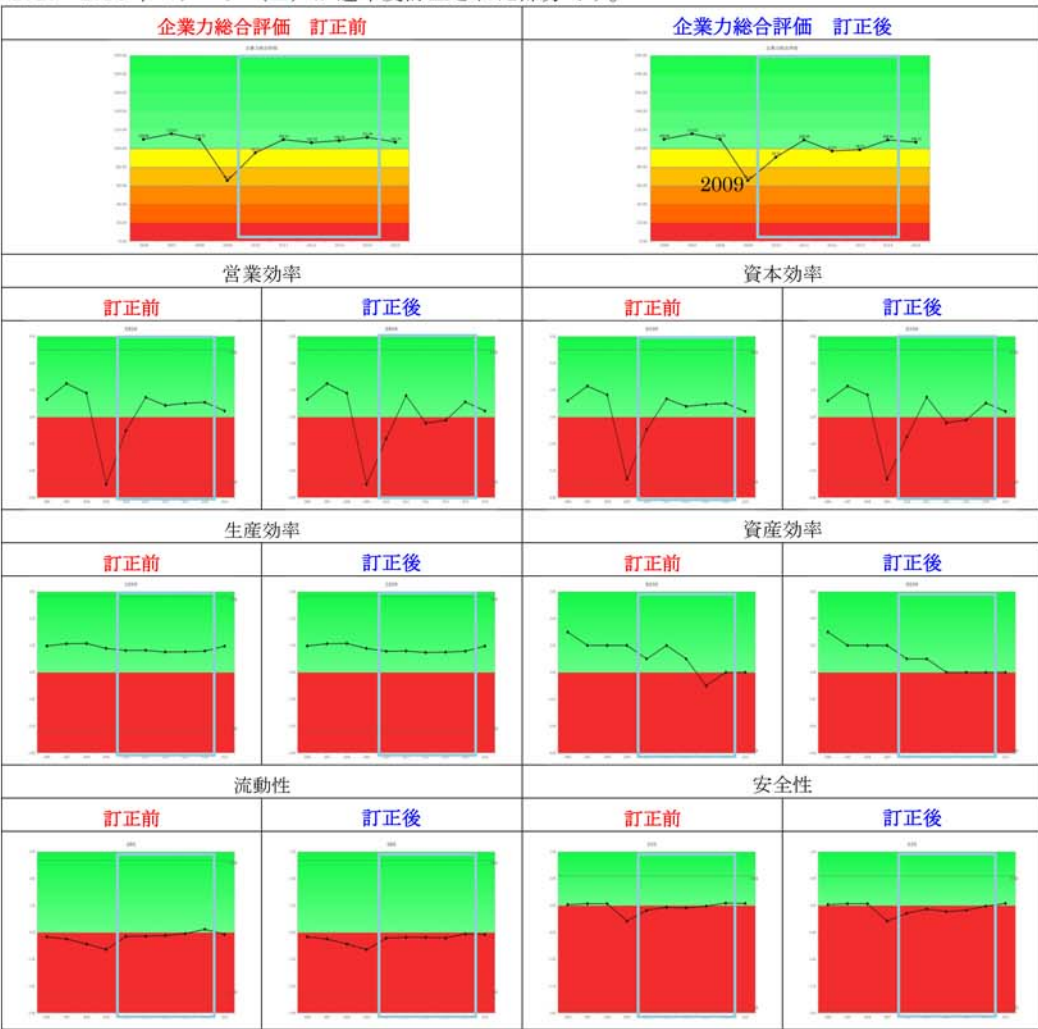


今回は、不適切会計で揺れる株式会社東芝を分析しました。2015 年 3 月期の決算発表が延期され、9 月 7 日に発表されました。財務諸表は過去に遡って訂正されました。

2006 年～2015 年 3 月期までの 10 年間で分析しました。
2010～2014 年のデータ (□) が過年度訂正された部分です。



企業力総合評価を見ると、2009 年のリーマンショックから 2 期かけて元に戻っていますが、訂正前後を見比べると、訂正後の (本当の) グラフの方は、その後、もたもたしていたのがわかります。知名度の高い会社としては、良く見せたいという粉飾の動機が生まれたと推測されなくもありません。

粉飾の効果? をグラフから検証してみます。

営業効率、資本効率、生産効率、資産効率、流動性、安全性について、訂正前後を見比べます。どうでしょうか。それほど大きな違いはありません。

実際の数字で確認してみます。

第 3 者委員会の報告では、2009 年～2015 年 3 月期第 3 四半期までの 7 年間に、税引前利益 1518 億円の修正が報告され、その大きさにマスコミ各社が驚きました。確かに実額としてはインパクトがあります。

しかし、連結売上高 6 兆 6558 億円、資産規模 6 兆 3347 億円の株東芝にとっては、1 年あたり 216 億 (=1518 億円÷7 年) の不適切会計の実額は、年間売上に対して 0.32% (=216 億÷6 兆 6558 億円) にすぎず、会社全体に与えるインパクトとしては大きいとは言えません。

つまり会社の規模からすると、今回の不適切会計は、会社全体で外部を欺くために巨額の粉飾を行ったのではなく、個人の私利私欲で少しだけ良く見せるために、部分的に粉飾していた、と言わざるを得ません。

粉飾決算は、長期で見れば収益は変わりません。

例えば、第 1 期に期末棚卸高を 100 過大計上して利益を 100 水増ししたとしても、第 2 期は期首棚卸高が 100 過大計上されるので、売上原価が 100 過大計上になり、同額の利益 100 が減ります。1 期～2 期をつなげて計算すると、粉飾してもしなくても同じ結果になります。

もし、第 2 期も 100 の利益を粉飾で出そうとすると、期末棚卸高を今度は 200 多く計上する必要があります。これをずっと続けようとする、第 3 期は 300、第 4 期 400・・・とその額は増加の一途をたどり、すぐに限界がきます。粉飾は、次期以降にツケを回すだけで、業績を永遠に良く見せることはできないのです。

まとめ

株東芝の不適切会計は規模が小さく、問題は個人の心の中にありました。第 4 代経団連会長で、東京芝浦電気株 (現 株東芝) の社長をされた土光敏夫氏の言葉です。

【経営者は問題を作り出せなくてはならない】

問題とは、決して日々解決を迫られている目前の問題をさすのではない。真に我々が取り組むべき問題とは、現状にとらわれずに「かくあるべき姿」の中に見出す不足部分をさすのである。問題意識を持つことは、このギャップを意識することを言う。問題はかくあるべき姿を求めて、日々真剣に自己の任務を掘り下げ追求し続ける意欲のある人の目にのみ、その真の姿を現す。問題とは、発見され創造されるものなのだ。

編集後記 創業した頃の思いはどんなでしたか。

♪あの～素晴～らしい～あ～い～を～も～お～い～ち～度～♪* ** * . : * . * : ◆

〒556-0005 大阪市浪速区日本橋 4-9-21 SARUKI ビル 4F 猿木真紀子税理士事務所

Tel. 06-6631-4570 Fax. 06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp